

＝執筆者紹介＝

松平信久 立教大学名誉教授・元立教大学院院長
立教大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了／ロンドン大学教育研究所特別研究生
単著『時に生き時を超えて 物語に表れた時間・父・母』（聖公会出版 2008年）
編著『教師のライフヒストリー 昭和史を教師として生きて』（東京大学出版会 1988年）
共訳書『二つの日本』（A・トークス著 聖公会出版 2013年）
『キープへの道 昭和史を拓いたポール・ラッシュ』（E・A・ヘンフィル著 立教大学出版会 2018年）
論文「佐々木順三の思想・信条と教職歴―戦後復興期における立教大学総長の人物像」（『立教学院史研究』第15号 2018年）ほか

宮川英一 立教学院史資料センター助教・センター員
2014年 専修大学大学院文学研究科歴史学専攻博士後期課程単位取得満期退学
論文「奉天における朝鮮人の国籍をめぐる問題：一九二七年末の瀋陽県・新民県の事例分析」（『専修史学』第47号、2009年11月）
「一九二〇年代後半期の在満朝鮮人と国籍問題：在奉天朝鮮人の対応を中心に」（『専修史学』第58号、2015年3月）
（幸野保典氏と共同執筆）「営業税課税標準申告書綴からみる川越地域経済と営業者の納税額の階層別分布：1917～1924年の営業税データを中心に」（『立教経済学研究』第71巻第1号、2018年7月）など